



冬季俳句会（令和二年十二月） 「特選句」句評（兼題：立冬、子季語含む）

特選句 句評

一、特選句を選ばれた方から、その句の魅力を語っていただきました。

○好事家に十一月場所の居反り 本多通博

◆大相撲で多彩な技で人気の宇良が大けがを乗り越えて位も上がり、十一月場所であつと驚く勝利。鮮烈に痛快に思い出させてもらつた。

岩壺克哉

○立冬や禿びり初めたる杖の先 中野陽典

◆ふと見ればすり減つて木地が出ている杖の先、一緒に歩いた月日を思い、心新たに立冬を迎えられたことでしょう。

加龍恵子

○歳時記に母の筆跡今朝の冬 中野亘子

◆歳時記は母の使っていたのを使っているが、所々母は感想や疑問を残しているが、生前の母が懐かしい。

中野陽典

◆母の遺品の歳時記を開くと、そこに鉛筆書きの短い言葉、母の自作の句か、懐かしさと私も励もうとの思いが伝わる一句。

佐藤多恵子

◆お母様の筆跡の残る歳時記をつかう幸せ。この句をみると自分もなんだか暖かくなります。自分の母のことをひととき思い出しました。

山家由紀

○枯園のあけぼの杉は天を刺す 中野亘子

◆「あけぼの杉」が「メタセコイア」の和名であることを知り「天を刺す」句の光景が鮮明になりました

前田秀一

○天平展出ずれば令和冬麗ら 中野亘子

◆このような体験が羨ましい思いです。

西村敏治

○見舞いなく八十路の床に冬立てり 西村敏治

◆コロナ禍で見舞禁止の入院となり、心細いことだと思います。何時同じことになるかと思うと寂しさと寒さを背筋に感じます。

佐藤茂弘

◆作者は老齡の故の悲哀を俳句にしているので、作者の気持がよく伝わってくる良い句である。

都 福仁

◆コロナ禍の中での入院は面会も思うようにできず、心細い日々を過ごしたことでしょう。そのような様子がよく表されていると感じました。

三木徳彦

◆コロナ禍の折大変です。頑張り通して病魔に打ち勝つて下さい。

戸堂博之

○焼栗や憶良の歌をつぶやけり 佐藤多恵子

◆普遍性を優しく詠んだ憶良は人々の心に沁み渡っている つぶやけり…に深く領きつつ思わず目頭が熱く…。

網 佑子

○岩陰につわぶきの黄色自己主張 斎藤優子

◆我が家の庭に咲いていて、同じような景なので全く同じ思いでした。

岩崎悦子

○忘却と如何に伴奏老いの冬 網 佑子

◆現在の私の心境にピッタリでした。

吉澤志保子

二、高得点句を見てみましょう。

①最初は中野亘子さんの句 歳時記に母の筆跡今朝の冬

9人の方が選し、うち3人が特選に採られた。歳時記を開くのが日常の生活になつていているのが目に見えるようです。今朝の冬を下五に持つてきて部屋の内外の対比も感じられてきりつと締つた良い句に仕上がりました。

②二句目は、西村敏治さんの句 見舞無く八十路の床に冬立てり

作者はこの春、仕事を譲られた後体調がすぐれず、何かと制約のある入院生活を送られています。が、「小川誠二郎さん」指導で続けてきた、仲間との繋がりを大切にの一心で、俳句を続けられているとか。この句には4人が特選を、入選を合わせると十四人が採られ、激励文も多数寄せられた。

③他に目を引いた優れた句をご紹介します

- ・戸堂博之さんの句 蕎麦湯の香満る学食午後の鐘
- ・佐藤茂弘さんの句 冬立つ日喪中はがきの二通来て
- ・前田秀一さんの句 ホツとする汁のひと口今朝の冬
- ・都 福仁さんの句 二上山登る足もと冬の蝶
- ・小松康子さんの句 立冬や井戸水ぬるく土ぬくし
- ・加龍恵子さんの句 冬立ちて母校訪ねば子等眩し
- ・佐藤多恵子さんの句 焼栗や憶良の歌をつぶやけり
- ・山家由紀さんの句 球磨川の文字美しく冬立つ日
- ・富岡訓子さんの句 訃報あり一氣に還るあの冬日
- ・斎藤優子さんの句 今日もまた同じ処に冬バツタ
- ・網 佑子さんの句 山茶花の庭彩りて散り敷きて

他にも沢山の良句をお寄せ頂きました。この度は「添削」の形のご指導が取れず、今後皆様のご意見もお聞きしながら進めたいと思います。

また、選句に加わって頂いた選者の皆様に、選句に寄せて頂いた熱い思いに對しまして、深く感謝申し上げます

【選句についてお願い】

- 一、お一人五句選句して頂き、その「句番号」をお寄せください。
- 二、選句の内「特選句」一句の番号の後ろに「特選」と記入して下さい。
- 三、「特選句」について、五〇文字以内で句評をお願いできればなお結構です。

投句、選句者氏名 () 内は選句者略号(五十音順)

網 佑子(佑)、井狩 修(修)、岩崎悦子(崎) 岩壺克哉(克)、加龍恵子(恵) 楠野圭子(圭)、小松康子(康)、斎藤優子(優)、佐藤多恵子(多)、佐藤茂弘(茂)、戸堂博之(博)、富岡訓子(訓)、中野亘子(亘)、中野陽典(陽)、西村敏治(敏)、本多通博(通)、前田秀一(秀)、三木徳彦(徳)、都 福仁(福)、宮本智乃(智)、元永悦子(永)、山家由紀(由)、吉澤志保子(志)